

ロシア軍によるウクライナ侵攻を非難し、平和を求める
西南学院大学神学部教授会声明

ロシア連邦大統領 ウラジーミル・ウラジーミロヴィチ・プーチン殿
ロシア連邦軍司令官・国防大臣 セルゲイ・ショイグ殿
ロシア連邦政府御中

私たちはロシア軍によるウクライナ侵攻を強く非難し、軍事的手段によるのではなく、対話による平和的解決を求めます。私たちはプーチン大統領にイエス・キリストの言葉で呼びかけます。ウラジーミルよ、「あなたの剣をその鞘に戻しなさい。なぜなら、すべて剣を取る者は剣で滅びるからだ。」（マタイによる福音書 26 章 52 節）

ロシア軍の軍事侵略は国際連合憲章第 2 条の「すべての加盟国は、その国際紛争を平和的手段によつて国際の平和及び安全並びに正義を危うくしないように解決しなければならない。…武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも…慎まなければならない。」という規定を破るものであり、国際法に対する明白な違反です。民間施設の爆撃やクラスター爆弾の使用は人道に反しており、断じて許されません。ましてや、直近の燃料気化爆弾システムの使用はその極みに達しています。戦争は最悪の人権侵害であり、環境破壊です。私たちはロシア軍が即時無条件に武力行使を停止し、速やかに撤退することを強く求めます。また、プーチン大統領は核兵器の使用さえほのめかして威嚇をしています。これは広島、長崎の被爆者たちをはじめとする全世界の核廃絶を求める市民の願いを踏みにじるもので、決して容認することができません。アメリカをはじめとする NATO 諸国も核兵器を共有し、先行使用の可能性を明確に否定はしておらず、軍事的影響力を拡大しようとしている姿勢は批判されるべきです。私たちは、関係各国の指導者たちが武力ではなく誠実な対話によって平和的解決を目指すことを強く要請します。古の預言者の幻が実現することを願って。

「主は国々の間を裁き

多くの民のために判決を下される。

彼らはその剣を鋤に

その槍を鎌に打ち直す。

国は国に向かって剣を上げず

もはや戦いを学ぶことはない。」（イザヤ書 2 章 4 節）

日本国内でも極右政治家が今回のロシア軍事侵攻を口実に、憲法 9 条の改悪、軍備の増強や核兵器の共有まで主張しています。しかし、私たちは戦争の恐怖を煽り、自ら誘発している脅威を根拠に国際的な緊張を高め、軍需産業で不当な利益を得ようとする企てを拒否します。私たちは憲法前文にあるように「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しよう」と努めている」世界各国の市民、特にウクライナとロシアで戦争に反対して声を上げている市民と連帯します。私たちは「全世界の国民が、ひとしく恐怖

と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認」し、ウクライナで傷つき倒れている兵士と市民、その家族、キエフの地下鉄構内、核シェルターで眠れぬ夜を過ごしている人々、ウクライナ全土で空爆に怯えている人々、そして難民となって恐怖と欠乏のうちに苦難を負わされている人々のことを覚えます。自らを守る術のない人々を滅ぼさないで下さい。また、全世界でロシア国籍の人々、ロシア文化研究者や学習者が嫌がらせを受け、差別を受けはじめていますが、今回の戦争に責任のない、一般の善良な市民であるロシア人やロシア関係者が差別されるようなことは決してあってはなりません。暴力や差別によって平和を創ることはできません。独裁者は「平和維持活動」と偽って戦争を行います。まるで自分一人が「神の子」でもあるかのように、平和を作り、維持するのだ、と大言壮語します。そして自分に逆らう者に平和を乱すテロリストのレッテルを貼り、これを武力で滅ぼそうとします。しかし、真の平和を創るのは、プーチンでも軍事同盟である NATO でもありません。真の平和を作るのは、それを求める世界の市民の声であり、行動です。私たちはここに希望を見出し、その人々と共に立ちます。

「幸せだ、平和を創る者たちは。

なぜならその者たちこそ神の子らと呼ばれるであろう。」

(マタイによる福音書 5 章 9 節)

2022 年 3 月 14 日

西南学院大学神学部教授会